

## 普及活動検討会実施報告書

亙理農業改良普及センター

実施月日：令和6年8月28日

実施場所：亙理農業改良普及センター会議室

### 1 検討内容

| No | 検討項目   |
|----|--|
| 1  | 令和6年度プロジェクト課題の実施状況について<br>① 土地利用型経営体における施設園芸品目の定着<br>② 名取市下余田2期地区における農地整備を契機にした地域農業の発展<br>③ 気候変動に対応したいちご栽培管理技術の再構築<br>④ さつまいもの産地育成 |

### 2 検討委員の構成

(単位：人)

| 区分       | 人数 | 区分    | 人数 |
|----------|----|-------|----|
| 先進的な農業者  | 1  | 生活者   |    |
| 若手・女性農業者 | 1  | 学識経験者 | 1  |
| 市町村      | 4  | マスコミ  |    |
| 農業関係団体   | 1  | 民間企業  | 1  |

### 3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

| 検討項目                                 | 評価値<br>平均値 | 評価結果（コメント，評価表の要約）   | 普及センターとしての対応方向  |
|--------------------------------------|------------|---|---|
| 検討課題1<br>（土地利用型経営体における施設園芸品目の定着）について | 4.6        | <ul style="list-style-type: none"><li>・高齢化を理由に解散する組合は今後増加することが予想されるが、単に作物や農地を継承するだけでなくマニュアル化もあわせて行うことで若手の担い手につなぎ続けることができる本取組は他のモデルともなる。トラブル対応や今後の新たな対策なども含め、成果を着実に上げている点が高評価に値する。</li><li>・高度な栽培技術の継承は、マニュアル作成に加え、糖度計を導入するなど、数値化、アグリテック化の取り組みを合わせて実施している点は評価できる。</li><li>・これまでの実績・経験をマニュアル化し、安定した収穫が見込めるよう後世に引継ぐことは、大変良い取組であると思います。</li><li>・技術継承は、今後どこでも必要とされるので、ニーズに合っていると思います。</li></ul> | <p>これまでに培われた栽培技術が高齢化により失われるおそれがあると認識しています。栽培マニュアルの作成や栽培技術の再整理が重要と考えており、同様の課題に対するひとつの解決モデルとしていきます。技術継承の最中にも新たな課題が顕在化することがありますので、引き続き迅速に対応していきます。</p> <p>各課題に対して科学的なアプローチも含めて引き続き対応いたします。</p> <p>実践に基づいた栽培マニュアルを作成し、次世代へ確実に技術継承することで、次世代の安定的な営農に貢献していきます。</p> |

| 検討項目 | 評価値<br>平均値 | 評価結果（コメント、評価表の要約）  | 普及センターとしての対応方向   |
|------|------------|--|--|
|      |            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人が経営を行う上で、品目を選定していくことについては、法人毎に高負荷価値ある品目等で苦慮していることから、参考になるものと思います。ただ、特産品として示していくのであれば、市場にも流通は必要のかなと思います。あまり「幻の」になる農産物は、果たして特産品と言えるのかという疑問が生じないでしょうか。</li> <li>・地域の特産品を守っていく大切な活動だと考えます。どの現場でも、栽培に関する「技術」や「暦」は属人的になっていることが多くあると思いますので、持続可能な産地形成、ブランド化のために細かい聞き取りを大切に行なって欲しいと思います。</li> <li>・幻のメロン「クールボジャ」は、これまで毎年ごちそうになっておりました。対象法人が栽培を引継ぎ、なかなか大変だと聞いておりました。今回、普及員さんたちと一緒に栽培管理ができています、何かの時はすぐ対策していただける事を聞いて、技術を伝えている元組合長もとても心強いと思います。来年も幻のメロン期待しております。</li> <li>・計画の設定は、ニーズを見据えており良いと思います。育成中の課題へも随時対応した事、大変良いと思います。担い手も育成レベルに合わせた活動であり良いと思います。</li> </ul> | <p>土地利用型法人が収益性を高めるために新たな園芸品目を導入することには技術面等の大きなハードルがありますので、技術的な支援を中心に、取組が継続的に発展するように支援していきます。特産品としての流通方法については、専門的な知見を参考にしながら生産者や関係機関と将来の方向性について情報交換をいたします。</p> <p>メロン「クールボジャ」を毎年心待ちにしている多くのファンの方々のためにも、これまで産地で培われた栽培技術を栽培マニュアルとして見える化し、生産のさらなる安定化を図っていきます。ベテラン生産者の思いと技術を次世代に繋げていくことに丁寧に対応していきます。</p> <p>地域や対象生産法人のニーズに合った活動を今後とも継続していきます。各課題には引き続き迅速に対応していきます。</p> |

| 検討項目   | 評価値<br>平均値 | 評価結果（コメント、評価表の要約）   | 普及センターとしての対応方向  |
|--|------------|---|---|
| <p>検討課題2<br/>（名取市下余田2期地区における農地整備を契機にした地域農業の発展）</p> | <p>3.9</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手も組み入れた法人による地域営農を目指し、地権者、営農候補者双方をしっかりとサポートしながら、一步一步進めている点が評価できる。計画期間は2年であるが新規法人による営農が安定するまで支援を継続することが望まれる。</li> <li>・地域の農家との話し合いを重ねることで法人化の取り組みの理解が進んでいると感じた。</li> <li>・作業区域内の農業用施設の設置か区域外の用地に設置か、判断に迷うような状況に現在なっているものと思いますが、今後の営農状況を鑑み、担い手への指導が重要だということと地域の協力体制がなければ進みませんので、検討会以降も息の長い取り組みをお願いします。</li> <li>・圃場の大区画化に併せた農地の集約化と新たな法人組織の立上げは、持続可能な農業を進めて行くうえでは重要ですので、大変良い取組であると思います。</li> <li>・すごく難しいプロジェクトです。プロジェクト自体は数年で終わるものの、その土地に住む人にとっては次世代までも続くことなので、慎重に、時間をかけても、細部にわたって合意形成を大切に、参加者全員が手にできる記録が必要と思います。</li> <li>・現状の収益に課題に取り組むという意志確立、計画策定したことは良い点であります。活動展開の方向性も確立されています。ただ、ほ場整備前の準備段階であり、実績がまだ見えていない。</li> <li>・下余田2期地区の法人設立に苦戦している事がわかりました。水田でのえだまめ栽培の今年の単収はいかがだったのでしょうか？栽培作物を考える事も良いのかと思います。現在、調整機械の補助事業はどれぐらいなのでしょう？</li> </ul> | <p>対象地区では、農地整備を含めた地域農業の将来像について話し合われてきたものの、リーダー的存在が見当たらない状況でした。</p> <p>従って、普及センターとしては、担い手の育成（法人化）及びほ場整備事業に関わる地権者、営農候補者との合意形成がより重要であると捉え、早期にプロジェクト課題に位置づけ、これまでコーディネーター役となって、話し合いの場を設定し意見をまとめ、対象者ととも一步一步進んできました。</p> <p>今後、関係機関と連携しながら、対象者と話し合いを重ね、結果を「～たより」等で共有しながら、課題解決に向けて進めていきます。</p> <p>プロジェクト課題は2年間ですが、プロジェクト課題終了後も継続してフォローアップしていきます。</p> <p>農地整備前ですので、まだ水田でのえだまめ栽培は開始されておりません。対象者は現在、畑でえだまめを栽培しており、高品質なえだまめを出荷しています。大区画水田でのえだまめも高品質・安定生産ができるよう支援していきます。</p> |

| 検討項目   | 評価値<br>平均値 | 評価結果（コメント、評価表の要約）  | 普及センターとしての対応方向   |
|--|------------|--|--|
| <p>検討課題3<br/>（気候変動<br/>に対応した<br/>いちご栽培<br/>管理技術の<br/>再構築）につ<br/>いて</p> | <p>4.3</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからは、親世代の栽培管理技術に捕らわれない若手生産者による栽培管理技術の再構築が求められておりますので、大変良い取組であると思います。</li> <li>・病虫害防除においては、いちご農家から特にアザミウマの被害が増加しているとの話を聞いているので、天敵を活用した防除技術の定着支援をお願いします。</li> <li>・課題の捉え方が良く、対応策も適切に実行して良いと思います。農薬に頼らない対策は良いと思います（抵抗性の観点からも）。</li> <li>・若手いちご生産者が経営継続するには・・・。気候変動、資材・燃料の高騰、問題が山積みの中、いかに安定した生産ができるか。育苗技術支援、病虫害管理の定着支援と研修会、技術交流と充実した対策がされているので今後も経営継続の支援を願いたいです。</li> <li>・目標の設定が良いと思います。</li> <li>・世代交代に伴う課題や新たな手法などを対象者のみならず、幅広い周知に努めている点が成果を大きくするポイントだと思われる。設定目標が2年連続収量1割増となっており、ハードルが高いと思われるが、どこまで達成できるか期待するところである。</li> <li>・近年、イチゴ栽培について、増えてきております。技術的な指導においては、気候の関係で苦慮している生産者も多く、特に夏イチゴは苦慮しているものと思います。技術の革新によって、生産量が増えることで経営面の安定も期待します。</li> <li>・いちごに限らず、どの品目も高温化による障害があると思います。対策は喫緊の課題だと思いますので、特に重点作物については引き続き取り組んでいただきたいと思います。</li> </ul> | <p>気候変動対策は喫緊の課題として重要であり、これまでの経験だけでは対応が難しいと認識しています。地域の先進的な生産者、関係機関と連携し、新たな技術指導について支援していきます。薬剤抵抗性の発生抑制にも繋がる天敵を活用した IPM の定着のために、現地実証等を含めて技術支援を進めていきます。</p> <p>若手いちご生産者の経営の安定のために各課題に対してひとつひとつ丁寧に支援していきます。</p> <p>管内全いちご生産者へ配布をしている「いちご通信」を通じて最新の技術対策情報について周知を継続します。目標達成に向けて巡回や研修会を通じて指導していきます。</p> <p>夏イチゴの生産者に対しても本課題で得られた成果等を指導していきます。気候温暖化の中にあっても生産量の安定確保による経営の安定は大切なことであるので、その基礎となる技術の定着を支援します。</p> <p>いちご以外の品目でも気候変動による高温障害等が見られます。各品目ごとに遮光や灌水による対策、品種の選定等について対応していきます。アザミウマ防除技術についても広く周知していきます。</p> |

| 検討項目                              | 評価値<br>平均値 | 評価結果（コメント、評価表の要約）   | 普及センターとしての対応方向   |
|-----------------------------------|------------|---|--|
| <p>検討課題4<br/>（さつまいもの産地育成）について</p> | <p>4.0</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・温暖化により作付け品目が変わっていく中で、新たな品目受入支援は今後重要になってくる。2社を対象とした中で差が出ている状況や理由を整理し、相互理解に努めていくことが今後求められるところである。設定目標については、ハードルが高いと思われるが、どこまで達成できるか期待するところである。</li> <li>・さつまいもの需要は高止まりで、産地化は大事な取り組みです。貯蔵・キュアリング処理施設もできたと聞いておりますので、生販一体となって取り組み、無駄が出ないように出口までの取り組みを望みます。</li> <li>・前年度よりも着実に栽培技術が向上しており、今後の収穫やキュアリングの工程確立に向け、引き続き支援をお願いします。</li> <li>・安定した生産、また、生産量の増加を図るため、分析や調査結果を行い、その結果を基に、迅速に対処されていることは、大変良い取組であると思います。</li> <li>・技術革新と生産場所の関係では、生産量に影響が出てくるものと思いますが、輸出に関しても産地をアピールして取り組まれて行かれると聞いておりましたが、今後の実施手法も期待します。</li> <li>・課題の捉え方、対応ができた点は良いと思います。今後の収益性も考慮した点は良いと思います。</li> <li>・せっきくの農地面積があるのだから他作目と労働力の配分が課題となっているが、何とかできないのか。さつまいもの貯蔵対策も問題解決がないのかと毎回残念に思います。</li> <li>・対象の2社とも品目が複数あるので、スケジュールの作成を支援することで収量が向上するのでは？と思います。</li> </ul> | <p>比較的温暖な気候となり作付けが進んでいるさつまいもの新たな産地づくりを目指していきます。各法人ごとの課題を生産者とともに整理しながら、相互の情報交換についても積極的に進めていきたいと考えています。目標達成に向けて、きめ細やかな現地指導等を通じて支援していきます。</p> <p>県内産のさつまいもの需要は安定しており、実需者、消費者が求める高品質な生産物を安定的に出荷、流通出来るように指導していきます。</p> <p>栽培技術の定着は進んでおりますが、各時期の技術の点検等を進めていきます。高収量に繋がるように必要に応じて土壌診断による施肥指導等により収量の安定確保に努めています。輸出に関しては、国内販売では安価となる比較的小さい規格が好まれる等の特色もあるので、収益性が高まるように品種や各規格に合わせた生産が出来るように支援します。</p> <p>気候温暖化の影響も受け作業計画の作成が難しく（収穫時期の前進化等）労働力の配分が難しいとも伺っています。各品目の特性を捉えた労働力の配分となるように対象法人とともに課題整理を進め無理のない作業計画等について引き続き指導していきます。さつまいもの貯蔵に関しては温湿度の計測等を進めながら最適な設定が出来るように支援していきます。</p> |

| 検討項目 | 評価値<br>平均値 | 評価結果（コメント，評価表の要約）             | 普及センターとしての対応方向  |
|------|------------|-------------------------------|---|
| その他  |            | ・引続き、検討課題の達成に向けてご尽力をお願いいたします。 | ・今後とも、皆様のご協力をいただきながら、課題解決に向けて進めていきます。どうぞよろしくお願いいたします。 |